

近隣企業と連携した環境保全活動の実施

福井県：まつなががわ松永川流域の環境を良くする会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

住民自ら身近な自然を再認識し、生きものに対する保全意識の向上を図る

【経緯】

多面的機能支払い交付金制度が創設されたことを契機に、当該制度を活用した水路等の維持管理を地域活動の一環として実施するために当会を設立した。



環境学習会

○環境保全施設と関連情報

【環境保全移設】水田魚道、ビオトープ、お魚ステーション等

【活用した事業等】県営経営体育成基盤整備事業

【保全対象生物】魚類、両生類、爬虫類等

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 生態系の調査

- ①生きもの採集及び種の同定、生息環境の把握
 - ・水路の生きもの調査を実施している。基本的には地域の親子が参加するが、平成26年の夏には一度だけ地域外の子どもを募集。子ども会が主体となって実施している。指導役として、福井県土地改良事業団体連合が来ている。

2. 環境学習会の実施

- ①生きもの調査、観察会の実施
 - ・近隣企業と交流活動として、田植えなどを実施（CSR）

3. その他

- ①地域資源保全のための推進活動
 - ・地元団体との協力体制の整備
 - ・農産物のブランド化の検討



生態系調査の様子



魚道の様子

○継続した活動でこんな効果が！！



子ども達による生きもの調査

■地区の環境を良好な状態で保全

・水路や川がきれいで給水も十分。セイタカアワダチソウなどの外来植物もみられない。ビオトープでは蛍がみられる。以上のことから良好な管理がなされていると思われる。

■農家の作業及び金銭面の負担の軽減

・当会の補助を水田のメンテナンスに充てることが可能となり、農家の負担軽減に寄与している。

○課題・苦勞した点

■施設管理の持続的な担い手の確保

・取組の継続性を高めるために、担い手の確保が課題としてあった。

■イベント活動への参加者の確保

・参加者はボランティア活動であり、人数が活動毎に増減してしまうため、安定した参加者の確保は課題である。

■保全活動の専門的知識や経験の不足

・生きものの同定や記録票の記入作業などの知識不足。

○工夫した点

■近隣企業との連携

・行政機関と連携した意向調査をもとに、連携の意思がある企業に働きかけて連携活動を開始した。

■近代化農業の体験

・子供たちに近代農業に興味を示してもらうため、コンバインに子供を実車させるなどして、子どもが楽しめる活動にしている。

■他団体との連携で知識不足等を解消

・生きもの調査に精通している福井県土地改良事業団体連合会に指導をお願いしている。

○活動の特徴！！

■近隣企業が CSR 活動として協力してくれている

・継続して近隣企業と交流を実施しており、社員食堂に生産米の提供に発展している。



○団体の概要は？

- ・平成 19 年度に設立され、活動エリアは福井県小浜市（旧松永村辺り）の松永川流域である。
- ・任意団体として活動していて、人数は約 400 名。
- ・年間運営費は補助金 100%となっている。
- ・年間活動日数は、約 50 日である。

